

---

---

2009 年度（平成 21 年度）

# 事業報告書

平成 22 年 5 月 21 日

学校法人 玉手山学園

---

---

# 学校法人玉手山学園 平成21年度 事業報告書

(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)

## 1 はじめに

### 学べる好機、学ぶ責任・喜び

すべての意思ある人が質の高い教育を受けられる国、子育てや教育は未来への投資として社会全体で支えていくものです。今春から公立高校授業料無償化、私立高校にも就学支援金が支給されるなど、一層多額の公金が教育に投資されています。良質の教育によって、高い教養と豊かな心が育まれ、そして新たな創造が加わり、次世代へ受け継がれ幸せな社会が拓かれていきます。若者は「学べる好機」にあること、そして「学ぶ責任・喜び」をしっかりと自覚し、自分を磨き、しっかりと次世代へ伝えてほしいと願います。子どもたち、若者は未来社会の宝物です。彼らを伸ばし育てるわれわれ教育人は、その責任・喜びを一層深く自覚しなければなりません。

### まもなく学園創立 70 周年(2012 年)

#### 第1期(2008～2012) 学園中長期計画推進

学園はまもなく70周年を迎えます。多くの学園関係者、先人の今日までのご尽力に感謝申し上げるとともに、さらなる学園の発展向上を目指しています。

昨平成21年度も、「常に魅力ある学園、社会に貢献し必要とされる学園を目指す」という運営基本方針のもと、各校園の教育目的・目標、事業計画、そして第1期(2008～2012)学園中長期計画(学園70周年記念事業)」の推進に総力を結集してまいりました。

### 学生・生徒・園児たちは学園の誇り

今春も多くの学生・生徒・園児たちが大いに学び自分を磨き、本学園を巣立って(卒業して)いきました。(どこまで伸ばすことができたか。) 彼らは我々学園教職員の誇りです。わが学園は、「彼らの誇れる母校」であり続けねばなりません。

学園教職員そして学生・生徒・園児たちが総力を結集させて遂行した平成21年度の教育事業を以下にご報告いたします。

平成22年5月21日  
理事長 江端源治

## 建学の精神「感恩」

人間のおよび得ない存在への畏敬の念と、生かされてある不思議を原点に、人はみな有形無形の数々の恩恵を享受し今日の自分がある。この偉大なはからいに目覚め、深い感動と感謝の念から発する情熱をもって、人の幸せを願い行動するとき、われわれは社会に貢献することができる。

## 学園の使命

建学の精神「感恩」を体し、人間の絆に目覚め、感動と感謝の念から発する情熱をもって人の幸せを願い、社会に貢献し得る人材を育成し、幸福・平和で豊かな社会の構築に寄与する。

学園の各校園はこの崇高な使命を全うするため、それぞれの教育目的・理念のもと具体的な教育目標を掲げ、その達成に総力を結集する。

## 学園職員の責務

教育人として

- ・人類の未来を拓く「知」の継承・伝達と創造・発展に努め、次代を担う有為な後継者を育成する
- ・「教育力の向上」に努め、「良質の教育サービス提供」に徹する
- ・学生、生徒、園児の持てる力をひきだし、伸ばし育てる
- ・学園に学ぶものに「入学してよかった、卒業してよかった」の満足感をもたらす
- ・教育人としての自覚のもと、喜びと誇りを持ってその責務・使命の遂行に情熱を燃やし、自己の能力および人格の向上に努める

組織人、私学人として

- ・学園および各校園の使命、経営方針、教育目的・目標の理解・堅持に努め、その達成に貢献する
- ・組織人としての自覚、連携・協調を重んじ自己の責務・役割を果たす

## 平成 22 年度 学園運営基本方針

常に魅力ある学園、社会に貢献し必要とされる学園を目指す

～確かな「教育力」と「情熱」が誇り～

1. 学園の使命、教育目的の共有・実践  
建学の精神「感恩」の定着推進  
各校園の教育目的・目標の再確認、共有、実践
2. 学生・生徒・園児を伸ばし育てる ～満足度関西一～  
愛情、責任をもって関わり鍛え  
「入学してよかった、卒業してよかった」の満足感につなぐ
3. 「教育力」の向上、「学園教職員魂」の高揚  
教職員の資質・能力、人格の向上  
教育に情熱のない教職員に接しられる学生は不幸である
4. こころ豊かな学風の確立、学校愛・母校愛の醸成  
笑顔、あいさつ、心優しいマナーの推進
5. 「学び」を支える学園環境、施設・設備等の充実
6. 継承・発展と改革を支える強く健全な財政基盤の確立・堅持

H21.11.20 理事会承認

## 2 法人の概要

### 1 設置する学校

(1) 関西福祉科学大学	社会福祉学部 健康福祉学部 社会福祉学研究科	社会福祉学科 臨床心理学科 健康科学科 福祉栄養学科 臨床福祉学専攻(博士課程・前期/後期) 心理臨床学専攻(修士課程)
(2) 関西女子短期大学		保育科 保健科 歯科衛生学科
(3) 関西福祉科学大学高等学校	全日制課程	普通科
(4) 関西女子短期大学附属幼稚園		
(5) 関西医療技術専門学校	医療専門課程 社会福祉専門課程 商業実務専門課程	理学療法学科 作業療法学科 介護福祉学科 介護福祉専攻科 診療情報管理学科 診療情報管理専攻科

### 2 学部・学科等の入学定員、学生・生徒・園児数の状況

(人)

	入学定員	編入学 定員 (3年次)	収容定員	H21 現員 (H21.5.1)	定員充足率 (現員/収容定員)	(ご参考) H22 現員 (H22.5.1)
<b>大学</b>						
社会福祉学部	340	60	1480	1698	1.15	1464
健康福祉学部	170	15	710	706	0.99	684
社会福祉学研究科	33	—	69	57	0.83	60
<b>大学計</b>	<b>543</b>	<b>75</b>	<b>2259</b>	<b>2461</b>	<b>1.09</b>	<b>2208</b>
<b>短大</b>						
保育科	130		260	205	0.79	181
保健科	70		140	190	1.36	170
歯科衛生学科	100		300	307	1.02	284
<b>短大計</b>	<b>300</b>		<b>700</b>	<b>702</b>	<b>1.00</b>	<b>635</b>
<b>高校</b>	<b>470</b>		<b>1410</b>	<b>525</b>	<b>0.37</b>	<b>552</b>
<b>幼稚園</b>	—		<b>495</b>	<b>417</b>	<b>0.84</b>	<b>408</b>
<b>専門学校</b>	<b>220</b>		<b>480</b>	<b>280</b>	<b>0.58</b>	<b>286</b>
<b>総合計</b>	<b>1533</b>	<b>75</b>	<b>5344</b>	<b>4385</b>	<b>0.82</b>	<b>4089</b>

※高校は学則上の定員(H21年度生の公表募集定員は240人)

### 3 役員・教職員の人数(平成21年5月1日現在)

#### (1) 役員

理事 9人 (うち、理事長1人、常勤理事6人)

監事 3人 (うち、常勤監事0人)

#### (2) 専任教職員数

(人)

	H21 年度			H20 年度	前年度比
	教員	職員	計	計	
大 学	90	49	139	136	3
短 大	31	14	45	42	3
高 校	43	7	50	51	△1
幼 稚 園	19	5	24	26	△2
専 門 学 校	22	9	31	33	△2
法 人	0	1	1	2	△1
法人本部	0	28	28	27	1
計	<b>205</b>	<b>113</b>	<b>318</b>	<b>317</b>	<b>1</b>

(H21.5.1 現在)

## 3 事業の概要

### ■ 主な事業内容および進捗状況

#### 関西福祉科学大学

##### (1) 学生満足度「関西一」の大学を目指す

全教職員が基本指針を根底に据え、大学教学活動を展開するよう心がけた。

- ・就職支援体制の強化（文部科学省補助金「大学教育・学生支援推進事業」採択（H21～H23））  
「個々の学生に対応した学士力発揮のための就職支援体制の強化」をテーマに就職支援体制を強化。具体的には、①学生個人が自分の能力・知識・適性を認識するアセスメント、②適性等と希望職場とのマッチング、③自己表現力等の向上を、キャリアカウンセラーやグループファシリテーターの個別サポートにより実施。
- ・教育環境設備の改善  
演習教室の視聴覚機器等の機能向上や実習用機器の充実を図り、また、平成 22 年度入学予定者対応として、身障者トイレの改修、休憩室を設置。
- ・食堂の改善  
食堂改善委員会において「学生食堂アンケート」を実施（H21. 10）し、食堂の改善を実施した。また、福祉栄養学科主催「たっぷり Vege 食べる料理コンテスト」を実施し、学生および教職員の投票によって選ばれた入賞作品を食堂メニューへ取り入れた。
- ・「丸善キャンパスショップ」の設置  
学内厚生施設として大学本館 1 階に「丸善キャンパスショップ（コンビニエンスストア）」を設置（H21. 4. 3 オープン）。

##### (2) 短大 5 号館の増築（H21.10 竣工予定）

- ・当初、短大 5 号館増築工事として計画していたが、主たる用途に合わせ大学校舎新築工事として平成 21 年 2 月に着工、平成 21 年 10 月竣工。建物名称を「大学 3 号館」とし、音楽室、楽器庫、調理実習室、調理実習準備室、試食室、養護看護実習室、養護看護演習室、養護看護準備室等の大学教学関連施設を設置。

##### (3) 「新棟」建築の準備

- ・平成 23 年 4 月の大学新学部設置構想に対応すべく、新棟建築準備を実施。新棟用途案については、法人施設部・新学部 PJT 及び教務部・総務部等が連携して意見を集約のうえ、新学部対応を中心に既存学部・併設短期大学等の教育力向上に繋がる用途案を作成。新棟建築予定場所にあった学生ハウス内学友会室は、学園既存建物内に移転。学生ハウスについては解体済（H22. 3）。平成 22 年 5 月 12 日の起工式を経て、平成 23 年 3 月竣工予定。
- ・新棟建物概要：地上 8 階建（延床面積 7748.32 m<sup>2</sup>）

#### **(4)大学「中長期計画」の実践、遂行**

大学「中長期計画」を具現化すべく、法人経営企画室と連携して以下の具体的施策を実施。

- ・「特別支援教育特別課程(文部科学省)」を申請(H21.7.2)。平成22年4月より特別支援教育専攻科を開設。
- ・新コース制度開設(H22.4開設)。
- ・臨床心理学科保育士養成課程の基本計画書(H22.3)提出(H22.9申請予定)。
- ・新学部「保健医療学部(仮称)」、「リハビリテーション学科(仮称)」、「理学療法学専攻(仮称)」、「作業療法学専攻(仮称)」の設置申請(H22.5申請予定)準備。
- ・新研究科「健康福祉学研究科(仮称)」、「健康福祉学専攻(修士課程)(仮称)」の設置申請(H22.5申請予定)準備。
- ・新校舎建築準備(H23.3竣工予定)。

#### **(5)4学科の「コース編成」の実践、遂行**

- ・教育目的(進路・就職目的)に合わせた一層の教育効果向上を期することを目的とし、4学科8コース編成を決定(H22.4開設)。
- ・「教育効果をあげる大学コース運営のあり方」に基づき、カリキュラム再編(精選絞込みと特徴化)、教育効果をあげるコース運営の工夫・実践を検討。
- ・コース別推奨科目をはじめとした履修モデルの構築、コース主任を選任(H22.4付)、コース別教員配置(H22.4付)等を完了。

#### **(6)大学院、研究科、専攻の増設準備**

- ・平成23年4月開設にむけ、具現化に向けた申請準備作業中(H22.5申請予定)。
- ・新研究科の概要  
新研究科組織を1研究科1専攻科体制とし、名称を「健康福祉学研究科(仮称)」、「健康福祉学専攻(修士課程)(仮称)」とし、入学定員5名(収容定員10名)で構想。

#### **(7)医療技術学部(仮称)の開設準備**

- ・平成23年4月開設にむけ、具現化に向けた申請準備作業中(H22.5申請予定)。
- ・新学部の概要  
新学部組織を1学部1学科2専攻体制とし、名称を「保健医療学部(仮称)」、「リハビリテーション学科(仮称)」、「理学療法学専攻(仮称)」、「作業療法学専攻(仮称)」とし、入学定員を「理学療法学専攻」80名(収容定員320名)、「作業療法学専攻」40名(収容定員160名)で構想。

## (8) 課程設置、各種資格の申請(H21 中に申請)

- ・ 特別支援学校教諭 1 種免許  
「特別支援教育特別課程(文部科学省)」を申請(H21. 7. 2)し、「学則変更届(文部科学省)」を届出(H21. 12)。平成 22 年 1 月 26 日付で同省教職員課より「教職免許課程認可書」を受領済。
- ・ 保育士養成課程申請  
臨床心理学科保育士養成課程設置については、基本計画書を提出済(H22. 3)。平成 22 年 9 月に設置計画書を申請予定。
- ・ 幼稚園教諭 1 種免許  
幼稚園教諭 1 種免許については、再検討の結果、申請見合わせ。

## (9) 教育開発支援センター設置

- ・ 平成 21 年 4 月に教育開発支援センターを設置済。センター組織の構築に向けて、教育開発支援センター規程および下部委員会規程(FD 委員会・教育活性化委員会・授業評価委員会)を新たに制定。
- ・ 入学時の学力測定、基礎演習、総合コースの運営を実施、学習支援プログラム(Pre-Learning)を構築、初年次教育プログラムの開発に着手。
- ・ 初年次教育についてのヒアリング調査結果をまとめ、大・短共に「初年次における教育内容実施調査結果」として報告済。

## (10) 学園キャンパス緑化

- ・ 学園キャンパスの緑化  
学園キャンパスの緑化として、校舎周辺を中心に植木を設置。
- ・ 学内美化の徹底  
学内美化の徹底として、要対応箇所の把握、リストアップを行ったうえで、重点清掃箇所のルーティン化を図った。また、学生・教職員の美化意識高揚を目的に標語ポスター作成、学内美化の啓発を実施。

## (11) 笑顔、あいさつ、心やさしいマナー推進

まず教職員へ基本指針定着、日々業務のなかで意識するよう心がけた。

- ・ 大学事務局内に「マナー向上プロジェクト」を立ち上げ、マナー向上に向けた下記の取組みを実施。
  - ① マナー・挨拶強化週間  
「マナー・挨拶強化週間」を企画し、実施計画作成。平成 22 年 5 月 10 日～14 日に実施予定。
  - ② マナー・あいさつの啓発  
就職ガイダンスや就職支援講座などを通じて、学生への「マナー・あいさつの啓発」を実施。
  - ③ 「禁煙」「分煙」「喫煙マナー向上」の推進  
大阪府八尾保健所の参加のもと、大学生・短期大学生・教職員を対象とした講習会を実施。喫煙の害悪に関する知識の普及とともに喫煙者には禁煙・減煙を勧め、非喫煙者には喫煙予防となる啓発活動を実施した。また、禁煙相談ブースを設置し(大学、短大の



学生ホール)、個別の相談にも対応。

## 関西女子短期大学

### (1)短大「中長期計画」の実践、遂行

- ・学園内専門学校の発展的移行の1つである新学科「医療秘書学科(仮称)」ならびに「医療秘書学専攻科(仮称)」の設置に向け、プロジェクトチーム(PJT)を編成し設置計画を遂行。
- ・「医療秘書学科」については、PJTを中心に文部科学省の事前相談(平成21年10月末)と届出申請(平成22年4月末予定)、近畿厚生局の介護福祉士学校設置申請(平成22年3月末・9月末)、社団法人日本病院会の指定申請(平成22年2月末)に向け、設置具体案の検討及び申請書類の作成を実施。
- ・「医療秘書学専攻科」については、文部科学省への設置に伴う届出に対応中(平成22年6月末頃)。

### (2)医療管理科(仮称)開設(H23.4)準備

- ・新学科名を「医療秘書学科(仮称)」とし、医療秘書コースと介護福祉コースの2コース編成とした。
- ・設置手続きは、平成21年10月28日に文部科学省へ事前相談申請を行い、同年12月12日に文部科学省より「届出可」との結果を受領、平成22年4月末の届出期間に届出書提出予定。
- ・医療秘書コース関係の手続きとして、社団法人日本病院会へ「診療情報管理士認定試験受験指定大学」の指定申請を平成22年2月26日に提出し、同年3月10日に書類審査において「可」との連絡を受領。
- ・介護福祉コース関係では、「介護福祉士学校設置計画書」を平成22年3月31日に近畿厚生局へ提出済。

### (3)歯科衛生学科のあり方検討

- ・全国的視野での四大化計画の実態、先行四大化歯科衛生士養成学校の動向(定員充足状況他)、本学学生の四大化への意識調査、高校生・保護者及び高校進路指導教員の四大化に関する調査等を総合的に検討実施。当面現行体制維持の結論とした。

### (4)保育科、保健科養護保健コースのあり方検討

- ・保育科  
教育課程の再構築、実習施設及び構成員と入学定員の検証等多面的に保育科におけるコースのあり方を検討した結果、平成23年4月より入学定員を130名から100名に、3コース制から2コース制に変更することを決定。
- ・保健科：養護・保健コース  
入学定員の再検討、入学者の数と質の動向から保健科における養護・保健コースのあり方を検討した結果、新学科「医療秘書学科(仮称)」の設置(H23.4開設)に伴い、平成23年4月より入学定員を70名から40名に変更することとした。平成22年度についても本コースのあり方を継続検討予定。

## **(5)教育開発支援センターの設置と計画立案・施行**

- ・平成 21 年 4 月に教育開発支援センターを設置済。センター組織の構築に向けて、教育開発支援センター規程および下部委員会規程（FD 委員会・教育活性化委員会・授業評価委員会）を新たに制定。
- ・入学前教育、初年時教育として学力テスト（国語・英語）、学習実態調査、総合演習（次年度より基礎演習と名称変更）における日本語能力の向上へ取り組んだ。
- ・初年次教育についてのヒアリング調査結果をまとめ、大・短共に「初年次における教育内容実施調査結果」として報告済。

## **(6)新棟建築**

- ・平成 23 年 4 月の大学新学部設置構想に対応すべく、新棟建築準備を実施。新棟用途案については、法人施設部・新学部 PJT 及び教務部・総務部等が連携して意見を集約のうえ、新学部対応を中心に既存学部・本学短期大学等の教育力向上に繋がる用途案を作成。新棟建築予定場所にあった学生ハウス内学友会室は、学園既存建物内に移転。学生ハウスについては解体済(H22.3)。平成 22 年 5 月 12 日の起工式を経て、平成 23 年 3 月竣工予定。
- ・新棟建物概要：地上 8 階建（延床面積 7748.32 m<sup>2</sup>）

## **(7)マナー教育の徹底**

- ・各学科・コースにおいて、ゼミ教育の基本手段として“夢ノート”を企画、運用実施。各教員がゼミを運営する中でマナー教育を実施。
- ・“夢ノート”の活用は、学生自身の振り返りと専門職へのモチベーション向上に大きな効果があった。  
更なる内容充実及び活用を図り、継続しマナー教育の徹底を実施予定。

## **(8)学園の緑化促進(学園アメニティの向上促進)**

- ・学園キャンパスの緑化  
学園キャンパスの緑化として、校舎周辺を中心に植木を設置。
- ・学内美化の徹底  
学内美化の徹底として、要対応箇所の把握、リストアップを行ったうえで、重点清掃箇所のルーティン化を図った。また、学生・教職員の美化意識高揚を目的に標語ポスター作成、学内美化の啓発を実施。

## (9)地域交流プログラムの実施

短大各学科において、地域との連携強化・地域支援を目的に下記プログラムを実践。

- ・保育科
  - ① 地域の保育現場（子育て支援センター：まぶねっこ）での定期的ボランティア
  - ② 学内での子育て支援活動“ジュモ”の支援活動
  - ③ 病棟保育のボランティア（羽曳野病院）
  - ④ 救急時の対応教育
  - ⑤ 合唱講座
  - ⑥ 夏季セミナー
- ・保健科
  - ① アニマルセラピー講座
  - ② 不登校児童・生徒支援
  - ③ 地域と連携した学校健康教育～喫煙防止教育～
- ・歯科衛生学科
  - ① 高齢者施設等における介護支援教育
  - ② 柏原市との連携プログラム「ほっとステーションにおける学生ボランティア」
  - ③ 柏原市との連携プログラム「幼児のブラッシング指導」

## (10)リカレント教育の充実

短大各学科において、リカレント教育充実に向けた下記プログラムを実践。

- ・保育科
  - ① 「幼児期に運動能力を向上させる遊び」をテーマとして、卒業生・一般参加者を対象に第6回夏季セミナーを実施(H21.7)。
  - ② 「乳幼児保育研究会」の活動の第一歩として、保育科教員が付属幼稚園に出向き、子どもの実態観察を実施。次年度の取り組み課題を決定した。
- ・保健科
  - ① 春学期は養護教諭志願の卒業生を対象とした教員採用試験対策講座を実施。
  - ② 秋学期は卒業生全員を対象とした養護教諭スキルアップのための講座を実施(月1回)。
- ・歯科衛生学科
  - ① 卒業生を対象とした歯科衛生士のスキルアップのため、リフレッシュ講座を実施(9月～10月)。
  - ② 現役学生と卒業生との融合を目指した生涯学習の一環として、研修会を実施(H21.11)。

## 関西福祉科学大学高等学校

### (1)教育改革の推進

平成18年度より「特別進学Ⅰコース」、「特別進学Ⅱコース」、「総合進学コース」の3コース制を実施しており、「特別進学Ⅱコース」は、その特色として習熟度別クラス編成を行っているが、今年度、その制度をより効率的かつ効果的なものにし、高い成果につながるようコース内をA、B2つのグループに分け、実質2つのコースとしてより独立性を持たせた形で教育活動を行った。

また3コース制2期生の生徒たちは、各コースで1期生につづいて進路実績を残した。

## (2)教育力の向上

授業の質の向上に向けては、今年度も「授業研究」や生徒による「授業アンケート」を実施したが、年々教科内での取り組みも進み、「わかる授業」、「実力のつく授業」のレベルも向上してきている。

また毎年タイムリーなテーマを選んで行っている「教員研修」や「高校生活満足度調査」による生徒たちの声も大切にしながら教育力の向上につなげた。

## (3)生徒の生活・学習についての重点指導

「生活面」では、基本的な生活習慣の確立に向けて、毎日の登下校指導で身だしなみや挨拶指導を実施、状況により個別指導も取り入れた。

また授業時における教師の教室への「ベル入」、生徒の「ベル席」を励行した。

「学習面」では、各コースの目標を理解させ、基礎力・応用力が身に着くよう、各コース、各学年が進路指導部と連携を密にし指導を行った。

## (4)学校行事の見直し

今年度は、生徒会行事を中心に見直しが行われた。

まず、これまでの「始業式」後に「入学式」を行う流れを「入学式」後に「始業式」を行う流れに変更し、「始業式」の中に新入生と2、3年生の「対面式」を取り入れた。

また巣立つ3年生の役に立つよう外部から講師を招き、「卒業講演会」を実施した。

「修学旅行」については、現在北海道で実施しているが、海外での「修学旅行」実施についても検討を継続中である。

3年生の「テーブルマナー」の是非を含めた見直しも次年度早々に行う予定である。

## (5)生徒募集活動の徹底

「入試説明会」の充実を図るとともに、本校の教育活動における他校との違いや特色などの情報発信に工夫した。また入試制度については、今年度は次の3点を導入した。

①「特別進学Ⅱコース」の志願者が入試において「特別進学Ⅰコース」の合格基準に達している場合、「特別進学Ⅱコース」および「特別進学Ⅰコース」の両コース合格とし、どちらかのコースを選択できる制度(転コース合格制度)を導入。

②「面接試験」を専願受検者のみ実施。

③高等学校同窓生に対する「子息女奨学金制度(入学金・授業料半額)」を創設。

## (6)教員評価制度の定着

「評価制度」の趣旨(目的)を各教員に浸透させ、教員の教育力アップにつながるよう取り組んだ。

## (7)学校自己点検評価の実施

「学校自己点検評価」の実施、分析により現在の本校の課題を把握し、その課題の克服に努めているが、今年度はじめて「学校関係者評価」としてPTA役員を含めた保護者にも「学校評価」を実施、保護者の声もこれまで以上に、より良い学校づくりに反映させている。

## 関西女子短期大学附属幼稚園

### (1)文部科学省よりの委託事業による実践校(園)としての活動及び研究

体力の向上を目指し、日々の保育で実践し、成果をあげることができた。

## (2) 満3歳児保育の促進

参加者の増加により、社会(子育て支援等)でのニーズを強く感じることができた。

## (3) 広報活動の促進

香芝市に対する積極的な園児獲得への対策を講じたが、今後はより効果的な広報活動を検討する必要がある。

## (4) 正課として体育指導を導入

子どもたちが喜んで、積極的に参加できていた。

体育講師の指導を体験することで、教師の保育力、指導力の向上が図れた。

## (5) 課外活動(体育教室の開設)の充実

多数の受講生がおり、人気を博している。また、卒園生からの教室開設希望に応じ、卒園生対象の小学生教室を開設した。(平成22年度より実施)

## 関西医療技術専門学校

### (1) 教育力の向上

教育力の向上のために、全教職員を対象にして学内勉強会(計3回、新型インフルエンザへの対応のため回数減)、学術大会(平成22年3月7日開催)を実施した。これらは平成19年度より開始され、次年度以降も継続実施する予定である。加えて学園の中長期計画への積極的な対応を念頭に、教職員自ら自己研鑽に励み、各種団体が主催する学会・研修会等に積極的に参加できる環境作りに努めるとともに、学術誌への論文投稿を奨励した結果、昨年よりも多くの学会参加を実現でき、学術論文の掲載も実現できた。

### (2) 授業評価アンケート・学生生活満足度調査の実施と活用

平成21年度在校生全員を対象として、「授業評価アンケート調査」については前期・後期の2回実施、「自己評価アンケート調査」ならびに「学生生活満足度調査」については平成22年1月に行った。集計結果は各講師にフィードバックし、次回以降の講義方針の検討資料としていただき、また改善を要する事項については関係方面に改善方を働きかけた。学校からの情報発信としては集計結果ならびに改善状況を掲示・公表した。当調査は過去5年間継続実施しており、評価も全体的に向上傾向を示している。

### (3) 志願者増強

通学圏における学生募集の足場固め、非通学圏からの志願者増加、学園内各校との連携強化を念頭に入学生の確保に努めた結果、オープンキャンパス参加者の大幅増、志願者増の状況を作り出し、入学生の増加につながった。平成22年度については専門学校の募集活動はないが、大学・短大化に向けよい道筋を築くことができたかと判断する。

### (4) 中長期計画達成

既存学科の大学・短大への発展的移行(新学科設置)に向けた監督官庁への申請手続き等に必要資料作成ならびに実習施設確保などに尽力し、平成23年度開設に向けて協力体制を築いた。今後も中長期計画達成に向け、専門学校の人材、教育力、蓄積したノウハウの有効活用を推進していき、学生募集にも積極的に協力する。

## 法人本部

### (1) 中長期計画の立案・推進

- ・大学保健医療学部・大学院健康福祉学研究科・短大医療秘書学科の設置に向けて、PJT ミーティングの実施や文部科学省・近畿厚生局などの訪問等を通じ、設置準備を進めてきた。
- ・今後、面接審査・実地調査などにおいて、関連部署・教員と連携を図り、認可に向けて適切に対応していく。

### (2) 運営目標の取りまとめ・推進支援

- ・運営目標進捗フォロー表の活用と目標実現に向け、必要に応じ業務支援を行った。  
高校では他校の取り組み施策や入学状況、授業料調査、ホームページの提案などを実施、幼稚園では保護者アンケート調査の分析など、課題解決に向けた支援を実施した

### (3) 新人事制度の定着化

#### ① 事務職員

- ・運用上の問題点を精査し、関連する規程を改定した。
- ・上記に伴い各部門の管理職に対し、変更点の説明を行った。
- ・職員の人事制度運用基準の改定を行った。(運用マニュアルの改定は平成 22 年度実施)

#### ② 教員

- ・評価結果の処遇への反映方法について、教員に対し十分な説明を行った。(処遇反映は平成 21 年度より実施)
- ・教員評価制度は 2 年目となり、制度運用上の諸課題を明確化した。
- ・大学・短大教員の評価表を一部変更し、活動内容をよりきめ細かく記載できるように改善した。

### (4) 大学校舎新築計画の推進

- ・9 月 18 日理事会にて建築場所を決定し、12 月より実施設計を開始した。
- ・平成 22 年 5 月着工に向けて施工業者選定・契約条件整備、基本スケジュールの策定を行った。

### (5) 施設設備の充実

- ・短大 5 号館増築工事は、10 月 20 日に予定通り完成し、「大学 3 号館」として使用開始した。
- ・本部 5 階の経営企画室拡張工事は将来を見据えた計画見直しにより延期した。

### (6) 職員の能力開発・レベルアップ

- ・職員対象学内研修会を本年度 2 回実施した。(会計処理研修)
- ・外部講師による事務管理職対象の労務管理研修会を実施した。
- ・SKK セミナー等学外研修会への積極的な参加を推進した。

## 4

## 財務の概要

## ■ 平成 21 年度決算の概要

## A【資金収支計算書】

## (1)収入の部

納付金収入は、学生・生徒数が前年度と比べ減少したため、予算比 50 百万円、前年度比 327 百万円減少の 4,115 百万円となりました。

手数料収入は、志願者数減少により入学検定料収入が予算比 10 百万円、前年度比 5 百万円減少の 74 百万円となりました。

補助金収入は、国・大阪府からの補助金の増加により予算比 162 百万円、前年度比 70 百万円増加の 694 百万円となりました。

資産運用収入は、デフレスパイラルに陥った国内経済の長期低迷による預金利率の低下及び納付金収入等の減少により予算比 3 百万円減少、前年度比 2 百万円減少の 71 百万円となりました。

事業収入は、補助活動事業収入の増加により予算比 9 百万円の増加となりましたが、受託事業収入の減少で前年度比 8 百万円減少の 64 百万円となりました。

雑収入は、退職金財団からの交付金収入により予算比 51 百万円、前年度比 7 百万円増加の 81 百万円となりました。

前受金収入は、学生・生徒・園児の入学者数の減少により予算比 89 百万円、前年度比 40 百万円減少の 747 百万円となりました。

収入全体では予算比 31 百万円増加、前年度比 178 百万円減少の 5,066 百万円となりました。

## (2)支出の部

学園全体の教職員数は、専任教職員については退職者に対する補充とし、前年度比増減なし、兼務教員は 1 名増加。勤続年数の長い役員・教職員の予算計上外の退職により退職金支出が、予算比 97 百万円増加したため、人件費全体として予算比 41 百万円の増加となりましたが、前年度比では 38 百万円減少の 3,092 百万円となりました。

経費については、各部門における節減効果が大きく予算比 68 百万円の減少となりました。前年比についても、教育研究経費支出、管理経費支出共に節減効果により 127 百万円の支出減となり、教育研究経費、管理経費合計で 1,228 百万円となりました。

施設、設備関係支出では、駐車場用地購入、大学 3 号館建設、校舎内外の改修、備品の更新等、教育環境充実の為の投資を積極的に実施しましたが、大学新校舎建設の契約が 22 年度になったこともあり、予算比 365 百万円の減少、前年度比 144 百万円増加の 510 百万円となりました。

## (3)繰越支払資金

上記の結果、法人全体として期中の支払資金は前年度より 122 百万円増加の 6,974 百万円となりました。

## B【消費収支計算書】

## (1)消費収入の部

資金収支計算書・収入の部と同様、納付金・手数料・資産運用の減少、補助金・事業

収入の増加等の要因により帰属収入の合計は予算比 174 百万円増加、前年度比 277 百万円減少の 5,110 百万円となりました。

大学 3 号館新築等による基本金への組入が 356 百万円あり、消費収入合計は予算比 693 百万円の増収、前年度比 505 百万円減収の 4,754 百万円となりました。

## (2)消費支出の部

資金収支計算書・支出の部と同様、人件費については予算比 10 百万円の増加、前年度比 26 百万円減少の 3,083 百万円となりました。経費については削減効果により予算比 68 百万円の減少、前年度比 129 百万円減少の 1,228 百万円となり、消費支出合計では予算比 35 百万円減少、前年度比 132 百万円減少の 4,806 百万円となりました。

## (3)消費収支差額等

当年度消費収支差額は予算では 780 百万円の支出超過でしたが、経費の節減と大学新校舎建築契約が翌年度になったことにより大幅に収支見込が変わり、実績は 52 百万円の支出超過となり大幅に収支が改善され、翌年度繰越消費収入超過額は 2,063 百万円となりました。なお、帰属収支差額は 304 百万円の収入超過となり引き続き健全財政を維持しました。

◆◆◆主要財務比率の経年比較表◆◆◆

	算式(×100)	H20 年度 (決算)	H21 年度 (決算)	前年度比	(ご参考) 全国平均※ (H20)
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	57.7%	60.3%	2.6%	52.8%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{納付金}}$	70.0%	74.9%	4.9%	72.3%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	24.3%	24.5%	0.2%	31.0%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	9.5%	8.9%	△0.6%	9.9%
帰属収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	91.7%	94.0%	2.3%	99.8%
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	93.9%	101.1%	7.2%	115.0%
学生・生徒等納付金 比率	$\frac{\text{納付金}}{\text{帰属収入}}$	82.5%	80.5%	△2.0%	73.0%
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	11.6%	13.6%	2.0%	12.5%
減価償却費比率	$\frac{\text{減価償却費}}{\text{消費支出}}$	9.4%	9.9%	0.5%	10.9%

※大学法人(医療系法人を除く)全国平均「平成 21 年度版 今日の私学財政」より

## C【貸借対照表】

### (1)資産の部

固定資産のうち土地は駐車場用地の購入、建物は大学 3 号館新築工事等がありました。



また、大学新校舎建設の設計着手金等を建設仮勘定として計上。その他の固定資産として減価償却引当特定預金が増加し、固定資産合計では 132 百万円の増加となりました。

流動資産の増加は、現金預金の増加によるものです。

以上の要因により、資産総額は前期末比 262 百万円増加の 23,789 百万円となりました。

(2)負債の部

退職給与引当金及び前受金の減少により、負債総額は前期末比 42 百万円の減少。

(3)基本金の部

大学 3 号館新築、駐車場用地購入等による 1 号基本金組入に対し、備品の過年度簿外処理分の減額もあり、全体では 351 百万円の純増となります。

(4)消費収支差額の部

消費収支計算書の部で述べたように、翌年度繰越消費収入超過額は、前期末比 47 百万円減少し、2,063 百万円。なお純資産は前期末比 304 百万円増加の 21,858 百万円となりました。

D【今後の課題】

少子化の影響が出始めた中で、平成 21 年度決算において帰属収支差額 304 百万円（同比率 5.9%）を確保できたことは評価できます。

今後の課題として前年比においても学生・生徒数、志願者数とも減少傾向にあり、学生・生徒等の募集をどのように行い、学生・生徒等を確保するかが喫緊の課題です。

教育の質の向上、学生サービス向上のためのハード及びソフトについての投資は引き続き積極的に推進します。

管理運営体制においては内部統制及び内部牽制の一層の強化を図ります。

学園創立 70 周年に向けて策定された「中長期計画」に基づき、経営基盤の安定を図りながら経理執行を行い、計画の達成を推進します。